

トラブルシューティング・ガイド	Q-2
ホイール アンド タイヤ	Q-3
作業前の準備品	Q-3
ホイール アンド タイヤ取扱い上の注意	Q-3
タイヤ交換時の注意	Q-3
点検/調整	Q-4
取付け	Q-6
タイヤ・ローテーション	Q-6
ホイール・バランス調整	Q-7

トラブルシューティング・ガイド

不具合項目	考えられる原因	処置	ページ
タイヤの過度の摩耗 又は偏摩耗	詳細はp. Q-5参照		
タイヤの早期摩耗	タイヤの空気圧不適正	調整	Q-4
タイヤのスキール	タイヤの空気圧不適正 タイヤの劣化	調整 交換	Q-4 -
ロード・ノイズの発生 又は車体の振動	タイヤの空気圧不適正 ホイール・バランスの不適正 ホイール又はタイヤの変形 タイヤの偏摩耗	調整 調整 修理又は交換 修理, 調整又は交換	Q-4 Q-7 - Q-5
“シェイク”現象 (ハンドルの上下振動)	タイヤ又はホイールの過度の振れ ホイール・ハブ・ナットの緩み ホイール・バランスの不適正 エンジン・マウントの損傷、へたり トランスミッション・マウントの損傷、へたり	交換 締付け 調整 交換 交換	- Q-5 Q-7 セクションC セクションK
“シミ”現象 (ハンドルの左右振動)	タイヤ又はホイールの過度の振れ ホイール・ハブ・ナットの緩み ホイール・バランスの不適正 タイヤの偏摩耗 タイヤの空気圧不適正 ホイール・ベアリングのガタ ステアリング関連事項 サスペンション関連事項	交換 締付け 調整 修理, 調整又は交換 調整 交換 - -	- Q-5 Q-7 Q-5 Q-4 セクションM セクションN セクションR
ハンドルがとられる	タイヤの空気圧不適正 タイヤの過度の摩耗又は偏摩耗 ステアリング関連事項 ブレーキ関連事項 サスペンション関連事項	調整 - - - -	Q-4 Q-5 セクションN セクションP セクションR
走行不安定	タイヤの空気圧不適正 ホイール又はタイヤの変形 ホイール・ハブ・ナットの緩み ステアリング関連事項 サスペンション関連事項	調整 修理又は交換 締付け - -	Q-4 - Q-5 セクションN セクションR
ブレーキの片効き	タイヤの空気圧不適正 ブレーキ関連事項	調整 -	Q-4 セクションP
ハンドル操作が重い	タイヤの空気圧不適正 ステアリング関連事項 サスペンション関連事項	調整 - -	Q-4 セクションN セクションR
ハンドルの戻り不良	タイヤの空気圧不適正 ステアリング関連事項 サスペンション関連事項	調整 - -	Q-4 セクションN セクションR

ホイール アンド タイヤ

作業前の準備品

計測器

ダイヤル・ゲージ	ホイールの振れ点検用	タイヤ・ゲージ	タイヤの空気圧点検用
----------	------------	---------	------------

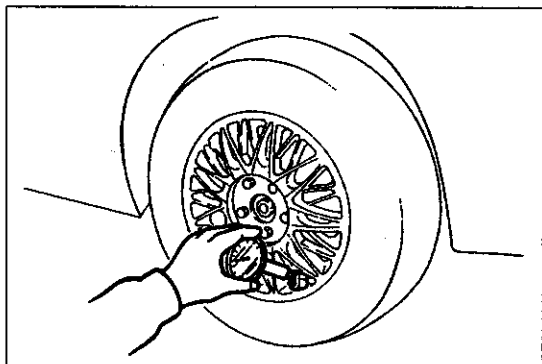
ホイール アンド タイヤ取扱い上の注意

1. 指定されたタイヤ及びホイール以外は装着しない。
2. 傷がつきやすいので注意する。
3. 水洗いする時は必ず布で行い、タイヤ・ブラシを使用しない。また、スチーム洗車で直接熱湯をかけない。
4. アルミはアルカリ性に弱いので、塩分がついた時はなるべく早く水洗いする。また洗剤は砂等の異物が入ったものの使用は避け、中性洗剤を使用する。

タイヤ交換時の注意

ホイールからタイヤ脱着時の注意

1. タイヤのビード部、リムのビード部、耳部に傷をつけない。
2. リム耳部やタイヤのビード部にたまった錆、ゴミかす、泥などは必ず布で取除き、ワイヤ・ブラシ、サンド・ペーパーは使用しない。
3. トレッドに食込んだ石、ガラス・釘などは取除く。
4. エア・バルブ（空気弁）は正しく取付ける。
5. ホイールのリムの耳部、タイヤのビード部には石けん水を塗る。
6. 取付けた後は空気圧を2.5～3 kg/cm²まで高め、ビード座のすわり、エアもれをチェックし、指定空気圧（参照：p. Q-4）まで下げる。
7. タイヤ・レバーでタイヤ交換を行う場合は、タイヤ・レバーとホイールの間には必ず古いチューブ等をはさんで作業する。また、作業ゴム・マットの上で行う。



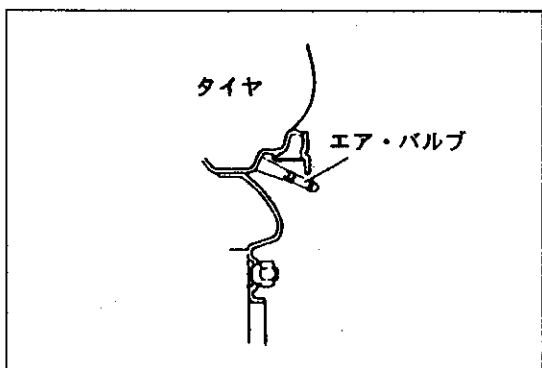
点検/調整

タイヤ空気圧

1. タイヤ・ゲージを使用して、タイヤの空気圧を点検し、指定空気圧でない場合は、調整する。(スペア・タイヤ含む)

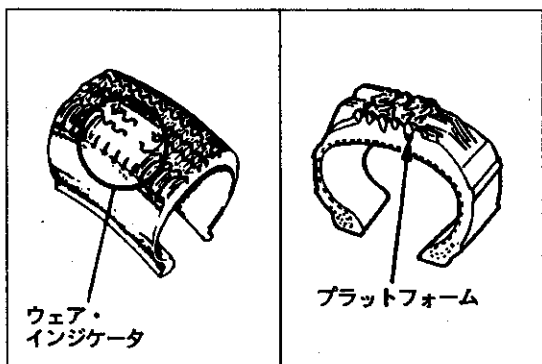
タイヤ・サイズ	空気圧 (kg/cm ²)
215/60R 15 90H	前後輪 1.9
225/50R 16 92V	前後輪 2.0
T135/70 D 15	4.2

(一般・高速共)



エア漏れ

1. エア・バルブから、エアが漏れていないか点検する。

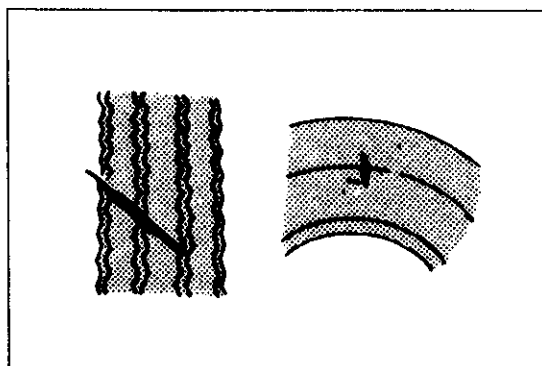


タイヤ摩耗点検

1. タイヤの溝の深さを点検する。
 限度値 1.6mm (普通タイヤ)
 摩耗率50% (スノー・タイヤ)
2. 限度値未満の場合、タイヤを交換する。

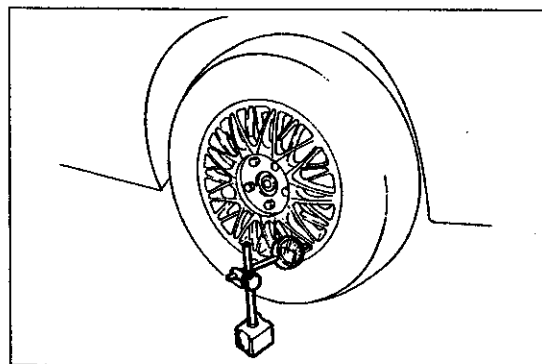
参考

- ・普通タイヤの場合、ウェア・インジケータが、またスノー・タイヤの場合、プラットフォームが現れる。



目視点検 (タイヤ アンド ホイール)

1. ホイール、タイヤに、き裂、損傷、変形等がないか点検し、不具合のある場合、交換する。

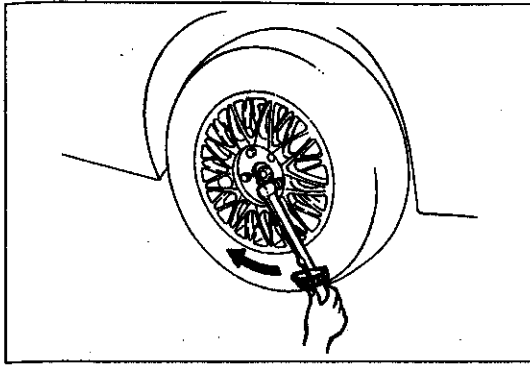


振れ

1. 車両をジャッキ・アップし、マグネット・ベース付ダイヤル・ゲージをセットした後、ホイールとタイヤをゆっくり回す。
2. ホイールとタイヤの振れを点検する。
 限度値 ホイールの振れ 2.0mm
 タイヤの振れ 2.5mm
3. 限度値以上の場合、ホイール、タイヤを組替えるか、交換する。

注意

- ・ホイールとタイヤの組替え及び交換をした場合は、ホイール・バランスの調整を行う。



ハブ・ナットのゆるみ

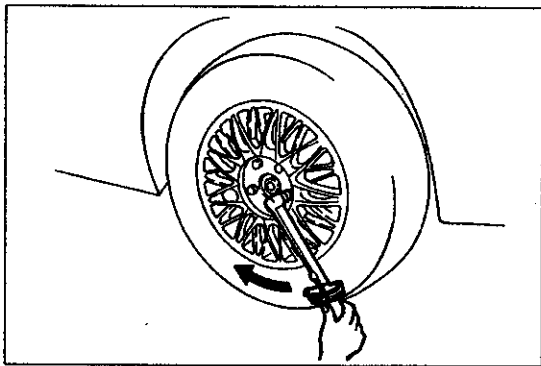
1. トルク・レンチを使用して、ハブ・ナットにゆるみがないか点検する。

締付けトルク 9～12kgm

タイヤ偏摩耗

1. 図示のようなタイヤの偏摩耗が現われた場合は、下表を参照して整備する。

偏摩耗状態	原因	処置
両側の摩耗 	<ul style="list-style-type: none"> ・空気圧不十分（両側の摩耗） ・急激な旋回 ・タイヤ・ローテーションの不備 	<ul style="list-style-type: none"> ・空気圧の計測と調整 ・急激な旋回の回避 ・タイヤ・ローテーションの実施
内側の摩耗 	<ul style="list-style-type: none"> ・空気圧の不適正（空気圧高い） ・タイヤ・ローテーションの不備 	<ul style="list-style-type: none"> ・空気圧の計測と調整 ・タイヤ・ローテーションの実施
羽先状の摩耗 	<ul style="list-style-type: none"> ・トーインの不適正 	<ul style="list-style-type: none"> ・トーインの修正
偏摩耗 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンバ角又はキャスト角の不適正 ・サスペンションの異常 ・ホイール・バランスの不適正 ・ブレーキ・ディスクの変形 ・タイヤ・ローテーションの不備 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクスル・サスペンション部品の修理、交換 ・サスペンションの修理、交換 ・ホイール・バランスの調整 ・タイヤの交換 ・修理、交換 ・タイヤ・ローテーションの実施

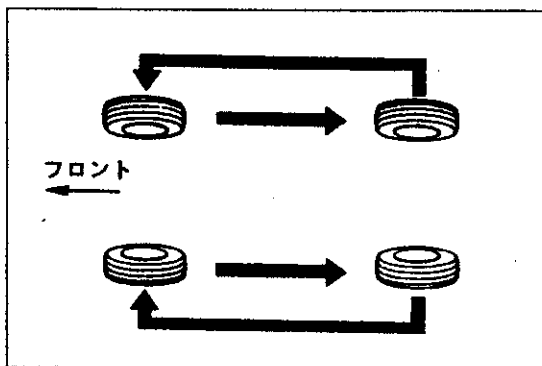
**取付け**

1. ホイール・ハブとホイール取付け面をきれいに清掃する。
2. ハブ・ナットを2～3回に分けて対角線状に規定トルクで締付ける。

締付けトルク 9～12kgm

注意

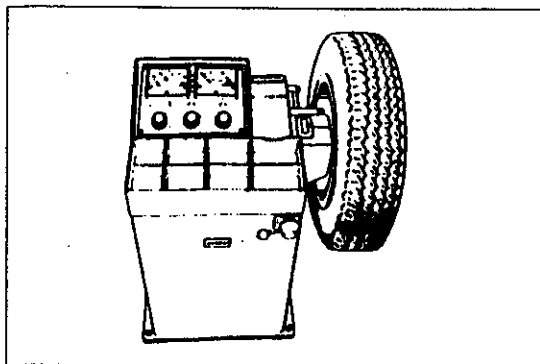
- ・ホイールをパンク修理などで取外した場合は、約1,000km走行した時点で再度規定トルクで締付ける。
- ・ホイールのハブ・ナット及びホイールの座には、絶対に油などを塗布しない。

**タイヤ・ローテーション**

タイヤの寿命を延ばすとともに、摩耗の平均化を図るため3,000～6,000km走行毎にタイヤのローテーションを行う。

注意

- ・応急用（スペア）タイヤは、タイヤのローテーションに使用しない。
- ・前輪には摩耗が少なく、傷、損傷のないタイヤを装着する。
- ・ローテーション後は、タイヤの空気圧を指定空気圧に調整する。

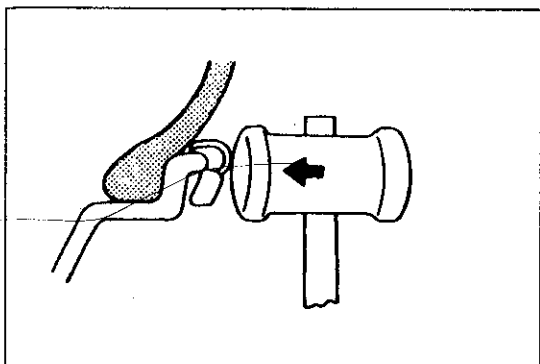


ホイール・バランス調整

1. ホイール・バランスが狂っている時、またはタイヤを修理した場合は、必ずホイール・バランスが標準値になるよう調整する。

ホイール・アンバランス量

- (リムの耳部で) 9 g 以下 (15インチ・ホイール)
- 8 g 以下 (16インチ・ホイール)



注意

- ・バランス・ウェイトは片側につき2個以下とする。
- ・バランス・ウェイト1個の重量は60g以下とし、片側2個の合計は100g以下とする。
- ・バランス・ウェイトはホイール取付け面にしっかり打込む。